



吉川友子後援会報

平成 29 年 7 月

あなた と わたし
友 & 愛

発行：吉川友子後援会
会長 上野昭久
会計 高塚紀之

No 21

幹事長 田村至
事務局長 滝沢さや香



ご支援ご協力をいただいたみなさま。

大変お世話になりました。今回は望月地域から 5 人の立候補となり、厳しい選挙でしたが、再度議員として活動させていただくこととなり、本当にありがたいです。同時に期待を背負った大きな責任を感じております。この間、多くの世代のみなさんと接することができ、様々なお話を聞くことができ、それをこれからの活動に活かしていきたいと思います。

母親として、女性として、一市民として、私たちの生活が豊かなものになるよう、未来を担う子どもたちが誇って「ふるさと」と呼べる佐久市になるよう、みなさまと一緒に考え行動していきたいと願っております。

どうか、これからもご指導の程よろしくをお願いします。

佐久市議会議員 吉川友子

仲間からの言葉

友子さんの選挙応援は、後援会や共に応援する仲間たちとひとつのモノを作り出す共同作業の様で、とてもワクワクします。それぞれが「友子さんの当選！」という同じ目標に向かって自分の出来ることをする、力の結晶のようです。

「選挙カーのウグイス嬢は二人でやってもらいましょう。」と提案したのは私ですが（この件で色々な方々にご迷惑をお掛けすることになってしまい本当にごめんなさい）、実際にやってみると疲れてくると口も頭も回らなくなって、何を言っているのか分からなくなってきました。そこで、翌日から出来る範囲で 3 人体制をとお願いしたところ、それが即実現しました。皆が力になりたいと思ってくれているんですね。感動しました。

その姿を見て、当選後「私に出来ることは無いかな？」と考えていたら、主人が「ピザ焼くか！」と提案してくれたので、それは名案！と友子さんにピザソースを頼んで（選挙が終わったばかりでお疲れの所、友子さんには無理なお願いをして、これもごめんなさい。）皆さんにピザを食べてもらおうと計画しました。

当日、お手伝いをしてくれたのが私の友人二人と沢山の子どもたち。お礼を言い忘れてしまいました。生地作りから配膳までお手伝いありがとう！

この子たちも遠くない将来有権者です。次回の選挙では私の息子も有権者になります。3 世代で応援してくれるご家庭もこれからどんどん増えていくでしょう。これが吉川友子後援会の揺るぎない力だと思います。

私ごとですが、友子さんのお陰で、保育園での同時入所が無くて 3 人目以降保育料軽減にあやかり（現在は無料）、又、遠距離通学の中学生のスクールタクシーが実現しました。中学生は自力で登校が当たり前だった協西区では夢のようです。

友子さんは私たちが当たり前だと感じている不便さにメスを入れてくれます。当たり前だからなかなか気付かないけれど、皆さんも不便なことは友子さんに相談してみてもいいのでは？

不便さが取り除かれれば、望月地区は子育てには最高の場所だと思います。大地と共に四季を肌で感じ、感性豊かな愛ある人を育てることがこれからの日本に必要な事ではないでしょうか。

友子さん、これからも頑張ってくださいね！！ みんな応援しています！！

佐久市協和 清水 千恵子

■みなさまのお力をいただいて 2 期目を務めさせていただくことになり、後援会報にも新しい名前を付けてみました。どうでしょうか。

■すべての人たちを「友」として、「愛」をもって活動したい。そして友はユー（あなた）、愛はアイ（わたし）。あなたと私の会報にしていきたいという願いです。



所属会派、委員会など

今期佐久市議会では 4 会派でスタートしました。私は引き続き「新政ネット」に所属し、会計を担当することとなりました。今まで通り、活発な意見交換、議論をしていく会派でありたいと思います。

■常任委員会では

総務文教委員として、総務、企画、教育などに取り組んでいきます。

■特別委員会では

広報広聴特別委員長としてより開かれた議会を目指していきます。

■また、今期から始まった総合交通対策特別委員会の委員として、高速や幹線道路以外にも、よりよい公共交通の研究を進めていきます。

■一部事務組合では

川西保健衛生施設組合議員（川西地区のし尿処理やごみ、川西赤十字病院の運営補助など）

北佐久郡老人福祉施設組合議長（佐久良荘）

として、今まで取り組んできた地元のことに、より深く関わっていききたいと思っています。

原発に関する講演会に 500 人以上が参加

5 月 27 日に佐久平交流センターにて、元京都大学原子炉研究所助教の小出裕章先生に講演していただきました。危険を知り、細心の注意を図りながら原子力と向き合ってきた先生だけに、お話に説得力がありました。福島事故により、広島原爆の 1000 倍以上ものセシウムがバラまかれました。また、生活のスタイルを変えて、節電の生活をする事により、必要な電力も減ってくる、消費者として意識すべきだと話されました。小出先生は、原発事故はすべての大人に責任があり、まったくの被害者は子どもたちだと言います。その子どもたちのために、小出先生は活動されています。

今回の講演会は参加して下さった方はとても多く、余剰金が出たので、小出先生の著書を図書館に寄贈させていただきました。講演会に参加された方も参加できなかった方も、小出先生の本を読んだり、講演の DVD を見たりすることができます。先生のおかげで、今一度原発や電気の大量消費について考える機会を与えていただいたことに感謝です。

お詫びと訂正 ■会報 19 号（前号）で人口増減の表の内、平成 17 年の人口浅間は 27,758、野沢は 18,045 でした。訂正してお詫びします。

第一回定例議会一般質問

第一回定例議会が6月3日から6月29日まで開催され、吉川議員は一般質問に登壇しました。

学校における政治教育

（吉川）若者の政治離れは世界中で課題になっていきます。投票率の低さから関心や期待のなさを解決するには、やはり教育しかないと思います。佐久市においては、学校教育における政治教育はどのようなことが行われているのでしょうか。

（荒井学校教育部長）小学校においては、修学旅行における国会議事堂見学、税務署の出前講座などがあります。中学校では、模擬選挙や生徒会活動があります。

社会教育における政治教育

（吉川）市民が政治に参画することは民主主義の基本です。教育基本法にある「良識ある公民として必要な政治的教養」を高めるために、佐久市では社会教育において政治教育をどのように実施していますか。

（荻原社会教育部長）教育基本法12条1項において、「個人の要望や社会の要請に応え、社会において行われる教育は国及び地方公共団体によって奨励されなければならない」と規定され、政治教育については同法14条1項において、「良識ある公民として必要な政治的教養は、教育上尊重されなければならない」と規定されています。吉川議員のおっしゃる通りであります。市教育委員会ではこのような理念に基づいて、市民の教養を高めるよう努めています。



（吉川）社会教育において、社会問題に触れると必ず現実の政治の問題に触れざるを得ないのです。戦争や平和の問題、防衛の問題、エネルギーの問題、世論が二分しているもの

ばかりですが、そういうことを学び、議論してこそ政治教育が成り立ち、教育基本法にある政治的教養が尊重されるのではないのでしょうか。教育委員会や公民館が率先して、政治教育の場を整えるべきだと思います。

社会教育における政治的中立性

（吉川）全国的には今、「政治的中立」という名目で後援を承認しないケースや、美術作品の展示拒否、俳句を公民館だよりに掲載しないなどの問題が起き、訴訟にまでなっているケースもあります。社会教育の専門家で構成する社会教育学会では、こうしたケースを大変重要な問題ととらえています。自主的に企画している講演会などは個人の資金や労力を使い活動しているため、市や教育委員会の後援をもらえないということは、信頼性や広報的なメリットは大きいのです。市民に対する公平中立とは、いかなる市民に対しても意見表明、表現の機会を平等に与えることではないのでしょうか。

講演会での後援取り消しについて

（吉川）5月27日に行われた小出裕章先生の原発に関する講演会は、京都大学で研究されてきた先生の知識に基づき、原発の仕組みや放射能について学ぶ機会でした。佐久市教育委員会がこの講演会の後援を承認し、講演間際になって後援を取り消したことは報道などにも取り上げられ、多くの方が知ることとなりました。実行委員会とすれば、「多様な情報を知り、学習する機会が制限された」と感じられ、非常に残念でした。社会教育法12条では「国及び地方公共団体は、社会教育関係団体に対し、いかなる方法によっても、不当に統制的支配を及ぼし、又はその事業に干渉を加えてはならない」としています。

市長にお聞きします。今回の後援申請の際に提出した企画書には「we are 原発のない世界」と書いてあり、世界中が原発に頼らないエネルギーにシフトしている中で、放射能や原発のしくみについて学ぶ機会というところをご理解いただき、教育委員会は後

援を承認したのだと思います。情報公開という意味でも市の事業のみでなく、私たちに影響のあることについては様々な情報に触れる機会を保障することが、開かれた情報公開なのだと思います。市長は政治家として、「自分の意見を言える立場なので、「政治的中立」についての今のお考えと今回後援取り消しとなった小出先生のお考えについて市長の意見をお聞かせください。

（柳田市長）今回の講演ですが、そういった自由な活動を保障する、という考えをお持ちであっても、自由にやっていただくことが重要だと思います。市が管理している公園や建物でそういったことが行われることについては、制限をかけるべきでないと思っています。一方で後援という形になりますと、後ろ盾をする、ということになります。様々な学習の機会の提供は重要ですが、後援するというのが、意見が分かれているものにできるであろうか、との戸惑いも感じます。後援をするにしても、しないにしても大変難しい問題かなと思います。

（吉川）私は生涯学習課や公民館が主催してでも、そういった学習会をしてほしいと思っています。歴史認識の問題でも、憲法の問題でも、教育委員会や公民館は市民が学習する場を提供する所ですので、私は後援や主催をしていいのではないかと考えています。「生涯にわたり主体的・創造的に学び、生きる力を育む人づくり、まちづくり」を教育大綱の基本理念に掲げている佐久市です。これを機に、社会教育の大切さをもう一度確認し、市役所内外で議論を深めていただきたいと思います。

社会教育主事について

（吉川）社会教育主事についてお聞きします。社会教育法第9条の2では、都道府県及び市町村の教育委員会の事務局に社会教育主事をおく、としています。現在、佐久市の生涯学習課及び公民館には何人社会教育主事の有資格者がいて、どんな仕事をされているのか伺います。

（荻原社会教育部長）現在、社会教育部の生涯学習課及び公民館に配置されています社会教育主事の資格を有する職員は、再任用職員を含めて中央公民館に三名います。中央公民館に在籍している一名の職員は通常業務に合わせて各地区館との運営調整、各種講座や学習グループへの支援者としての業務を行っています。

学校での労働状況について

学校の先生方の労働状況について質問しましたが、紙面の関係でここでは省略します。「部活動の指導員導入」については強く要望しました。

望月地区に関する市長公約について

1、望月高校の存続に力の結集を

（吉川）市長選挙の際に配られました市長の公約についてお聞きします。望月高校は望月地域にとってきわめて大切な存在であり、またこの第6通学区においても大変重要な役割を果たしている学校です。白馬村や立科町のように佐久市も市として望月高校の存続にご尽力いただくよう、重ねてお願い申し上げます。

2、長者原地区での農業支援

（吉川）長者原地区における農業支援についてですが、公約には「将来的にも安定した産地として発展させていくために、支援を強化してまいります」とあります。ここにあります、さらなる支援というのは具体的にどういったことなのか、お聞きします。

（佐藤経済部長）長者原地区は、生産されるキャベツや白菜などの高原野菜が「まるつき」「ブランド」として、市場で高い評価を得ており、高原野菜の生産地として大変重要な地区と認識しています。また、有機農業により、都内の有名レストラン等と直接取引をする農業者の方もいます。これらを市長自ら出向いてトップセールスを行っています。将来的に安定した産地として発展させていくために、土づくり用の堆肥の中間貯蔵施設や、かん水、消毒などに利用するための水

タンクの施設改修、道路の拡幅についても地域の皆様の要望をうかがいながら実施していきたいと考えています。

（吉川）中石堂の道路整備は、地元の皆さんの粘り強い要望により実現することとなりましたが、その他の枝分かれしている道路は狭く、最近の大きなトラクターでは入れない、それが原因で使いたい畑も使えない、という現状もあります。また、かん水施設の整備も現場の農家と話し合って、計画実行していただきたいと思います。

3、川西赤十字病院への運営費補助

（吉川）川西赤十字病院ではこれまでも、リハビリなども含む地域包括ケア病床を4床増やし、17床にするなど経営改善に努め、平成28年度の稼働率は地域包括ケア病床が92.7%、療養病床は93.1%と、常に満床状態を維持しています。病床単価なども考えながら改良していった結果、入院収入は増加しましたが、単年度の黒字化には苦勞しています。病院や職員は最大限の努力をしています。ですが、経営がきびしいのは制度上の問題です。川西保健衛生施設組合より支出している運営補助の期限は今年度までとなりますが、来年度からも継続するよう、ここで確認いたします。

（柳田市長）川西赤十字病院は川西地域において唯一の公的医療機関として望月地域を中心に多くの皆様がご利用いただいています。平成30年度以降の財政支援ですが、川西赤十字病院が今後も引き続き存続していただくために、川西保健衛生施設組合と川西赤十字病院が相互に連携をとりながら、経営健全化への取り組みがなされ、さらには川西地域住民の皆様のご理解が得られることが何より必要なことであります。

（吉川）昨年9月から勤務していただいている常勤の先生は訪問診療にも力を入れ、地域ニーズに合わせて対応しておられます。ぜひ今まで以上のご支援ができるよう、力を尽くしていきたいと思っています。